

1. 略歴

- 1982年 3月 東京大学文学部第三類フランス語フランス文学専修課程卒業
1984年 4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学 (仏語仏文学)
1987年 4月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程進学
1988年 10月 パリ第12大学博士課程 (～1991年9月) (フランス文学、フランス政府給費留学生)
1992年 3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程退学
1992年 4月 東京大学文学部助手
1994年 4月 白百合女子大学文学部専任講師 (フランス文学)
1997年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授 (フランス語フランス文学)
2010年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授 (フランス語フランス文学)

2. 主な研究活動

a 専門分野

フランス近代文学。

b 研究課題

- (1) ポール・ヴァレリー研究。「夢」というトポス、断章という形式からの検討。
- (2) クレオール文学研究。エキゾティシズムとは無縁の、活力にあふれたその作品美学の研究を、シャモワゾー、コンフィアン、グリッサンなどの作品読解を通して進めている。
- (3) 20世紀フランス文学における散文の研究。小説全盛の19世紀とは異なり、20世紀には、詩的強度を備えたさまざまな散文作品が書かれるようになった。とりわけ、時間意識、さらにイメージの活用法という視点から、その特質の一端を捉えようと試みている。

c 主要業績

(1) 著書

編著、『写真と文学—何がイメージの価値を決めるのか』、平凡社、2013.10

(2) 論文

- 「デッサンの度合い—ヴァレリーにおける夢の詩学」、『絵を書く』マリアンヌ・シモン=及川編、p.203-233、2012.6
「ヴァレリーとフロイト—奇妙なまなざしをめぐって」、『思想』、n.1068、p.243-261、2013.4
「〈さすらい〉の詩学—マルグリット・デュラス監督『トラック』を中心に」、『文学と映画のあいだ』野崎敏編、東京大学出版会、p.61-82、2013.6
「時のゆがみ—ローデンバック、ブルトン、ゼーバルトの〈写真小説〉」、『写真と文学—何がイメージの価値を決めるのか』平凡社、p.34-57、2013.10
「『夢の圧力』—ブルーストとヴァレリーにおける眠りと夢について—」、『思想』、n.1075、p.103-123、2013.11
« La conscience comme événement — une relecture de L'Ange », *Forschungen zu Paul Valéry*, n° 24 (2011), p.53-70、2013.12

(3) 翻訳

サミア・カッサブ=シャルフィ著、『パトリック・シャモワゾー』(原題 *Patrick Chamoiseau*)、共訳 (塚本昌則・中村隆之)、アンスティチュ・フランセ、2012、http://issuu.com/ifpub/docs/patrick_chamoiseau_if
ポール・ヴァレリー著、『魂と舞踏』(原題 « L'âme et la danse »)、樹(こいつ)の対話 (原題 « Dialogue de l'arbre »)、
『ヴァレリー集成 VI—〈友愛〉と対話』(恒川邦夫・松田浩則編訳)、筑摩書房、2012.7、p.226-257、p.258-277
ポール・ヴァレリー著、『レオナルド・ダ・ヴィンチ論』(原題 « Introduction à la méthode de Léonard de Vinci » 等)、ちくま学芸文庫、2013.9

(4) 書評

ダニー・ラフェリエール、『帰還の謎』、『ハイチ震災日記』、藤原書店、『週刊読書人』、2012年1月6日
『2012年回顧・外国文学 (フランス)』、『週刊読書人』、2012年12月21日
エドゥージュ・ダンティカ、『地震以前の私たち、地震後の私たち—それぞれの記憶よ、語れ』、作品社、『週刊読書人』、2013年10月18日

中村隆之、『カリブー世界論—植民地主義に抗う複数の場所と歴史』、人文書院、『週刊読書人』、2013年11月29日
『2013年回顧・外国文学（フランス）』、『週刊読書人』、2013年12月20日

(5) 解説

「フランス文学」、「カリブ海のフランス語文化（クレオール文化）」（項目執筆）、『フランス文化事典』田村毅・塩川徹也・西本晃二・鈴木雅生編、丸善出版者、2012.7

「トドロフ」（項目執筆）、『現代社会学事典』見田宗介・編集顧問、大澤真幸・吉見俊哉・鷺田清一編、弘文堂、2012.12

(6) 学会発表

「フィクション論の現在」、ワークショップ「フィクション論の現在」、日本フランス語フランス文学会 2012年度春季大会、東京大学文学部、2012.6.3

「〈中心的態度〉—サルトルのイメージ論をめぐる—」、『サルトル／バルト』、東京外国語大学総合文化研究所、2012.12.8

「ヴァレリーにおける「フィギュール」概念」、ワークショップ「来るべき修辞学—文学と哲学のあいだで—」、日本フランス語フランス文学会 2013年度春季大会、国際基督教大学、2013.6.2

「オートフィクションと写真—ジョナサン・リテル『慈しみの女神たち』を出発点に—」、「〈生表象〉の近代—自伝・フィクション・学知—」、一橋大学、2014.2.2

(7) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、塚本昌則、研究代表者、「近代フランス文学における散文の研究」、2013～

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本フランス語フランス文学会員